

## 2010 年度第一回粒子・流体プロセス部会幹事会議事録

日時：2010 年 9 月 6 日 12:00～13:00

会場：同志社大学 N 会場

出席者：齋藤（東北大）、甲斐（鹿児島大）、鷺見（カネカ）、太田（室蘭工大）、梶原（九州大）、鈴木（産総研）、後藤（岡山大）、大川原（東工大）、西岡（佐竹化学機械）、本間（埼玉大）、鈴木（神戸大）、伊藤（太平洋セメント）、亀井（ダイセル化学）、加納（東北大）、（順不同敬称略）

1. 齋藤部会長の開会挨拶後、自己紹介と担当の確認を行った。【資料 1】

2. 部会セミナーについて【資料 2】

後藤幹事より、部会セミナーのあるべき姿について担当者間で議論し、次の案が示された。

\* 部会セミナーを年会の前日に開催する。

\* スタイルに関しては、特別講演会あるいは分科会持ち回りとする。

\* スケジュール、内容については、今後メールにして審議する。

3. 女性・若手育成プロジェクトについて【資料 3】

鷺見副会長より、女性育成プロジェクトとして、女性研究者・技術者、女子学生のための交流ランチ会（仮称）の開催について案が説明され、了承された。来年度は、博士課程卒業後、企業で活躍する若手技術者と、修士・博士課程学生やポスドクとの交流会を予定していることが説明された。

4. 秋季大会 3 日目の特別講演会・パネルディスカッションについて【資料 4】

齋藤部会長より、翌日(9/8)開催予定の部会企画による特別講演会・パネルディスカッションについて説明された。

5. 部会賞について【資料 5】

・シンポジウム賞（太田幹事）

対象となるシンポジウムにおける発表の審査の方法について説明された。

・動画賞（本間幹事）

秋季大会に発表されたものを対象として動画賞が 10 月 5 日まで募集していることが説明された。

・フロンティア賞（梶原幹事）

2009 年 10 月～2010 年 9 月の期間に発表された化学工学関連の論文を対象にして 10 月

15日まで募集していることが説明された。

・技術賞（鈴木(善)幹事）

過去1年間における粒子・流体プロセスに関連した技術によって優れた業績があったものを募集（締め切りは12月17日）していることが説明された。

#### 6. 分科会と部会事務局への予算配分について【資料6】

部会事務局より、予算配分の変更について案が示された。化学工学会本部からの部会への配分額（収入）から部会共通経費（ホームページ管理費、部会賞関連経費、新プロジェクト経費）を差し引き、その25%を部会事務局経費とし、その残額を各分科会の会員数に応じて配分することが了承された。本年度の部会共通経費は43万円とすることも了承された。

#### 7. 今後の幹事会・総会の開催日程について

下記の家が示され、メールにて審議することとした。

部会幹事会：化工年会前日（2011年3月21日（月）（祝日））昼

分科会幹事会：部会幹事会終了後（あるいは年会開催期間内）

部会セミナー：部会幹事会終了後（あるいは分科会幹事会終了後）

部会総会：部会セミナー終了後

場所：未定ながら東京農工大学内

\*年会：2011年3月22日～24日 東京農工大学

#### 8. 会員状況【資料7】

現在の会員数の報告がなされた。

以上

		所属	分科会	担当
部会長	齋藤 文良	東北大学		
副部会長	上ノ山 周	横浜国立大学		部会賞担当
	甲斐 敬美	鹿児島大学		行事担当
	竹田 宏	アールフロー		広報担当, ホームページ担当
	鷲見 泰弘	カネカ		若手・女性育成プロジェクト担当
幹事	太田 光浩	室蘭工業大学	熱物質流体工学代表	シンポジウム賞担当
	梶原 稔尚	九州大学	ミキシング技術代表	フロンティア賞担当 部会セミナー担当(副)
	寺坂 宏一	慶應義塾大学	気泡・液滴・微粒子分散工学代表	ニュースレター担当(正)
	鈴木 善三	産業技術総合研究所	流動層代表	技術賞担当
	後藤 邦彰	岡山大学	粉体プロセス代表	部会セミナー担当(正)
	大川原 真一	東京工業大学	熱物質流体工学副代表	国際会議(IWPI)担当(副)
	西岡 光利	佐竹化学機械工業	ミキシング技術副代表	若手・女性育成プロジェクト担当
	本間 俊司	埼玉大学	気泡・液滴・微粒子分散工学副代表	動画賞担当
	桑木 賢也	岡山理科大学	流動層副代表	会員増強担当
	松山 達	創価大学	粉体プロセス副代表	ニュースレター担当(副)
企画幹事	鈴木 洋	神戸大学		国際会議(IWPI)担当(正)
	伊藤 光弘	太平洋セメント		若手・女性育成プロジェクト担当
	亀井 登	ダイセル化学工業		若手・女性育成プロジェクト担当
	所 千晴	早稲田大学		若手・女性育成プロジェクト担当
監事	堀尾 正靱	龍谷大学		
	脇屋 和紀	大川原製作所		
事務局	加納 純也	東北大学		

## 部会セミナーについて

H22 年度担当分科会  
粉体プロセス分科会  
ミキシング分科会

### 【本議論の背景】

粒子・流体プロセス部会平成 21 年度第 2 回幹事会（H22.3.17，於鹿児島大学）にて「部会セミナーは部会企画として重要であり、収益性のある企画としても確立していくことを目指し、今後は部会セミナー担当として 2 人体制（2 分科会）とすることとした。2 分科会で持ち回りのローテーション体制、企業の研修の場としても活かせるような企画、セミナー名称の変更、熱物質流体工学セミナー（無料）との関係の明確化、場所・時期の固定など、次の幹事会（秋季大会）までにしっかりとした議論をし、無理なら 1 年見送る覚悟で収益性のある良い企画を真面目に検討することとなった。」（議事録より抜粋）

### 【現状と問題点】

粒子・流体プロセス部会平成 21 年度総会において、堀尾部会長（当時）より、ここ 2 年間の部会セミナーについての概略次のような説明があった（以下、総会議事録からの抜粋）。

- 1) もともと本セミナーは、部会の重要行事として収益性のある形でやるものと設定されてきた。
- 2) 第一年度は、担当幹事から参加者数が少ないとの見込み情報に基づき、部会長肝いりで、分科会からの動員をお願いしたが、「動員」への批判もあり、第 2 年度はそのような動員態勢を敷くことはしなかった。しかし、結果的には 2 年連続して赤字となり、大幅な見直しが必要となった。

なお、決算上問題となったセミナーでの赤字については、各分科会の予算規模に合わせて赤字分を回収する内規（資料 2 - 参考）を作成し、対応した。

前述の幹事会議事録と上記概略より、現状の問題点は『動員をかけないと参加者が集まらない』ことに尽きる。参加者が集まらない要因は（想像の範囲を超えないので）いろいろと考えられるが、部会セミナーに限らず、学術講演会で参加者が集まらない要因として、

参加したくなる企画内容ではない

場所、時期が不適切

類似企画がある

などが挙げられる。これらのうち、については、例えば講演会の場合、時流に乗った講演テーマ、トピックスを設定すると参加者数が多くなることがあるが、部会セミナーをテーマ、トピックスを絞った講演会とすると、熱物質流体工学セミナーやミキシング分科会夏期セミナーなど各分科会のセミナーと「類似の企画」となる。

この「参加したくなる」動機には、内容そのものの魅力だけでなく、例えば、化学工学会年会や秋季大会のように、「その分野に関わる研究・開発・製造をしているから」とか「主

催組織に属しているから」という「ある種の義務感」もある。前述の総会議事録にある「部会セミナーについては、今回のようなことが再発しないよう強力な体制で臨む」ことは、各分科会メンバーに、部会セミナーが「ある種の義務感」を持って参加する会であると認識してもらうことも含まれると考える。ただし、そのような会の場合、できる限り多くの人に参加できるように、「開催場所と時期」は配慮する必要がある。

#### 【部会セミナーの在り方についての提案】

『動員をかけないと参加者が集まらない』問題の要因の中で最も重要なのは、「参加したくなる企画内容ではない」ことであると思われる。前述のように、「参加したくなる」動機について、

(1) 時流に乗った講演テーマ、トピックスを設定する

(2) ある種の義務感を持たせる

が考えられる。これらから考えると、以下の案が考えられる。

(1) 時流に乗った講演テーマ、トピックスを設定する

テーマ、トピックスを絞った会にすると、分科会行事と類似の会となる。そこで、

案1 現在、分科会行事として開催しているものを部会セミナーとする

この場合、例えば、要因 場所、時期が不適切にも配慮すると、

案1-1 秋季大会前日に開催される熱流体工学セミナーを部会セミナーとする

案1-2 年会前日に分科会持ち回りで、その分科会が対象とする分野のセミナーを開催するなどが考えられる。

(2) ある種の義務感を持たせる

幹事会にて「強力な体制で臨む」ことが確認されているので、どのような内容の部会セミナーでもある種の義務感は、幹事および幹事経験者には持っていただけたらと思うが、一般の部会メンバーには難しい。義務感を持って、かつ、参加しやすく考えると、例えば、案2 年会前後（可能なら最終日午後）に、講演2件程度の講演会と、部会総会を開催する。このような総会の前講演会は、当分科会だけでなく多くの学会で見られる形態であり、それが部会の上部組織である化学工学会年会の前後で行われるのであれば、一般の部会メンバーにも、会の意義を理解していただくことができ、多くの参加が見込めるのではないかと考える。また、総会前の講演会は、いわゆる特別講演的な講演会なので、年会開催大学にちなんだ先生や企業研究者などに講演依頼すれば、分科会行事との類似性はなくなる。

上記案1,2いずれの場合も、化学工学会年会または秋季大会前後に開催するとしており、部会セミナー参加者はそれらの大会の参加費を支払っているため、部会セミナー参加費は過度な額とならないよう配慮する必要があると思われる。

以上

粒子・流体プロセス部会

粒子・流体プロセス部会セミナー内規

制定 平成 22 年 3 月 30 日

1. 粒子・流体プロセスに関する科学技術的理解の増進と研究活動の進展のために部会の行事として粒子・流体プロセス部会セミナー（以下、部会セミナーと略称）を開催する。
2. 部会セミナーは有料の行事とする。参加費は、部会登録済み会員、部会登録をしていない化学工学会会員、会員外で区別するものとする。
3. 部会幹事会は部会セミナーの本来の目的が達成できるよう、十分な体制で企画・実施を行う。
4. 部会セミナーの収支決算は健全財政を原則とする。
5. 部会セミナーの収支決算が赤字となった場合、赤字分は各分科会が、翌年度、それぞれの予算規模に比例して、負担するものとする。
6. 5の実施に当たっては、事務局は、当該部会セミナーの翌年度、各分科会への割当金を分配する際に、分科会負担分を差し引くものとする。

附則

この内規は平成 22 年 4 月 1 日より施行し、平成 21 年度決算から適用する。

シンポジウム

粒子・流体プロセス研究・教育の新しい課題と方向

会場：T会場

日時：9月8日（水）

9:00 - 9:20

**T301 粒子・流体プロセス部会の設立経緯と今後の展開への期待**

(神戸大)(正)薄井 洋基

9:20 - 9:40

**T302 粒子・流体プロセス部会への企業サイドからの期待**

(アールフロー)(正)竹田 宏

9:40-10:00

**T303 魅力ある部会の継続的發展を目指して**

(阪大)(正)平田 雄志

10:00 - 10:20

**T304 粒子・流体プロセス部会成長の軌跡（平成18、19年度）**

(工学院大)(正)上山 惟一

10:20-10:40

**T305 粒子・流体プロセス部会への期待**

(神戸大院工)(正)鈴木 洋

10:40-11:00

**粒子・流体プロセス部会發展の方向**

(龍谷大・法)(正)堀尾 正靱

11:00-12:00

**粒子・流体プロセス部会のさらなる發展をめざして(パネルディスカッション)**

司会： 齋藤 文良(東北大，粒子・流体プロセス部会部会長)

パネリスト： 薄井 洋基(神戸大，初代粒子・流体プロセス部会部会長)

竹田 宏(アールフロー，粒子・流体プロセス部会副部会長)

平田 雄志(阪大，第二代粒子・流体プロセス部会部会長)

鈴木 洋(神戸大院，粒子・流体プロセス部会企画幹事)

堀尾 正靱(龍谷大，第四代粒子・流体プロセス部会部会長，監事)

## シンポジウム賞について

2010年度第1回粒子・流体プロセス部会幹事会資料

粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞(プレゼンテーション賞および奨励賞)の審査と手順は、以下の通りである。(先にメールにて配信済み)

### 1) 選考委員会(敬称略)

委員長 太田 光浩

委員 太田 光浩, 寺坂 宏一, 加藤 禎人, 後藤 邦彰

(以上、関連シンポジウム・オーガナイザー)

鈴木 洋(粒子・流体プロセス部会企画幹事, 前熱物質流体工学分科会代表)

### 2) 審査委員

(プレゼンテーション賞)

各セッション座長 + 各分科会役員(人選を関連シンポジウム・オーガナイザーに委託する。)

(奨励賞)(S-39 に 2 件, S-41 に 1 件のエントリーあり)

太田 光浩, 鈴木 洋

### 3) 審査方法

(プレゼンテーション賞)

審査項目に沿って審査を行い、シンポジウム毎に候補者 1 名を推挙して頂く。

審査点が満点の 80% 以上の者をプレゼンテーション賞授与対象者とし、最大 4 件を選定する。

(奨励賞)

審査項目に沿って審査を行う。審査点が満点の 80% 以上の者を奨励賞授与対象者とし、最大 1 件を選定する。



## 分科会への予算配分について（案）

収入(予定)		
交付金		550,000
還付金		132,300
会費	特別法人会員	850,000
	特別個人会員 A	16,000
	特別個人会員 B	15,000
合計		1,563,300

部会共通経費		
ホームページ		30,000
部会賞		200,000
新規プロジェクト経費		200,000
合計		430,000

分科会交付金		前年度 実績
熱物質	87671	137543
ミキシング	359656	427231
気液固	73713	99994
流動層	106704	149340
粉体	190369	252917
事務局	315,187 (事業収益 10%を含む)	448175
合計	1,133,300	

これまでの方法による分配金

収入(予定)		
交付金		550,000
還付金		132,300
会費	特別法人会員	850,000
	特別個人会員 A	16,000
	特別個人会員 B	15,000
合計		1,563,300

部会共通経費	
ホームページ	30,000
合計	30,000

分科会交付金		前年度 実績
熱物質	120936	137543
ミキシング	508207	427231
気液固	101681	99994
流動層	147190	149340
粉体	262599	252917
事務局	422,687 (事業収益 10%を含む)	448175
合計	1,563,300	

粒子・流体プロセス部会分科会細則改訂（案）

旧	新
<p>第 8 条 分科会活動は部会からの分科会分配金と分科会が企画する事業の収入などによって行う。</p> <p>2. 分科会は部会事務局より部会費(本部からの部会交付金および部会事務局が徴収する部会会員の会費)の 25%を差し引いた残額をさらに分科会員の数で按分した額を分科会分配金として支給される。</p>	<p>第 8 条 分科会活動は部会からの分科会分配金と分科会が企画する事業の収入などによって行う。</p> <p>2. 分科会は部会事務局より部会費(本部からの部会交付金および部会事務局が徴収する部会会員の会費)から部会共通経費を差し引いた額の 25%を差し引いた残額をさらに分科会員の数で按分した額を分科会分配金として支給される。</p>

平成 21 年度事務局収支決算（抜粋）

収入：448,175（部会交付金収入）

収入合計：448,175

支出：

事業費：224,404（部会賞）

管理費：195,151（会議費，通信費，アルバイトなど）

支出合計：419,555

繰り越し金：381,897

平成 22 年度事務局支出状況

支出合計予定：636,935

事業費：300,000（確定）

ホームページ作成費 300,000

管理費：336,830（予定）

会議費 40,000（予定）

通信費 20,000（予定）

交通費 61,855（確定分）

消耗品費 20,000（予定）

アルバイト費 150,000（予定）

部会賞 35,080（確定分）

雑費 10,000（予定）

収入見込み： 315,187（部会交付金収入）

繰越金： 381,897

合計 697,084

## 会員状況

	個人会員	特別法人会員	特別個人会員 A	特別個人会員 B
2010年4月	709	36	7	5
2010年8月	740	34	8	5

## 入会

個人会員 A 吉田有香 (株式会社 IHI) 2010年5月

## 退会

特別法人会員 千代田化工建設株式会社 2010年4月

特別法人会員 株式会社日立プラントテクノロジー 2010年5月

## 分科会会員状況(2010年9月3日現在)

	熱物質	ミキシング	気液固	流動層	粉体
個人会員	86	92	66	96	154
特別法人会員	4	25	2	5	7
特別個人会員 A	1	4	3	1	4
特別個人会員 B	1	3	0	0	2

## 女性・若手育成プロジェクト」検討ワーキング討議資料

「女性・若手育成プロジェクト」検討WGメンバー：

伊藤光弘（太平洋セメント）、亀井登（ダイセル化学）、鷺見泰弘（カネカ）、所千晴（早稲田大）

[ 敬称略順不同 ]

## 1. ワーキングの目的

女性および若手部会委員の育成，および新たな女性および若手部会委員の獲得を目指す。

## 2. ワーキング開催報告

- ・第1回ワーキング 平成22年6月22日 12時～14時（早稲田大学）

女性・若手研究者、技術者の抱える一般的な課題点の確認。

育成の方法に関する意見交換。

- ・第2回ワーキング 平成22年8月19日 15時～17時（早稲田大学）

パネルディスカッションおよびランチ会開催の具体案を意見交換。

## 3. ワーキングにおける意見交換結果の概要

- ・女性育成と若手育成は現状および課題点が異なっており、別々に取り組むべきである。

- ・パネルディスカッションや座談会を開催し、現状や課題点、育成プロジェクトに対する要望等を、生の声として収集してはどうか。

## 4. 「女性技術者、研究者、女子学生のための交流ランチ会（仮称）」の提案

名称：女性技術者、研究者、女子学生のための交流ランチ会（仮称）

形式：パネルディスカッションおよびランチ会

目的：女性技術者、研究者の現状や課題点を広く共有し、育成プロジェクトに対する期待、要望を発信する。また、粒子・流体プロセス部会に関係する女性技術者、研究者の人的交流により、部会の活性化を図る。

対象：女性会員、または会員に推薦を受けた女性技術者、研究者、女子学生等、女性に限定する。

日時：2010年11月前後

場所：関西（大阪科学技術センター等）

会費：無料

司会：所千晴（早稲田大学理工学術院 准教授）

予算：会場費、昼食代、謝礼、司会者旅費等、計150,000円程度を見込んでいる。

パネリスト：技術者、研究者として活躍する女性3名程度（部会員から推薦を募る）。

その他：

- ・関西支部の協力を得たい。

・来年度、第2弾として、博士課程卒業後、企業で活躍する若手技術者と、修士・博士課程学生やポスドクとの交流会を予定している。

以上